

# 10月の農薬

平成26年10月1日

この資料の活用は、窓口での即対応と今月と翌月の農協在庫計画にもご利用できます。

## おうとう・もも・うめ

### 休眠期間中のコスカシバ対策

○コスカシバは落葉後の防除が効果的です。(防除時期が遅れると樹木の深いところへ食入し薬剤が到達せず効きにくくなります)

#### (1) コスカシバの生態

コスカシバは年1回の発生で、幼虫で枝幹の加害部で越冬するが、越冬幼虫は若齢から老熟まで混在し越冬する。成虫は長期にわたって発生するが、初発生は5月下旬頃からで、一般には8月下旬～9月下旬が最盛期となる。雌は成虫になると交尾し、枝幹の割れ目などに産卵する。ふ化した幼虫は樹皮の傷口や皮目などから樹皮下に食入し、皮層組織の木質部を食害するため、被害部から樹液がしみ出し、樹の衰弱を招く。

#### (2) 防除法

- ① 各果樹(おうとう・もも・うめ)の落葉後～発芽前(休眠期)にラビキラー乳剤、200倍を枝幹部を中心にていねいに散布する。(ぶどうのトラカミキリ防除にも200倍～300倍で使用できます)
- ② 交信かく乱剤による防除  
スカシバコンLを越冬成虫発生前の5月下旬までに設置する。1区画20aを目処とし、10a当り40～100本設置する。
- ③ 春先の活動が盛んになった頃、糞を排出している穴を目安に小刀等で幼虫を掘り出し捕殺する。樹には、傷口を保護するためトップジンMペースト等を塗布しておくといよい。
- ④ 虫ふんの混じったヤニの出ている食入痕周辺(幅4～5cm程度)を木槌か金槌で軽くたたいて圧殺する。

## 果樹全般

### バスタ液剤の秋処理による雑草防除対策

○果樹園の雑草を秋期に防除することにより、春先の雑草の生育を長期間抑えます。  
○降雪前の雑草が枯れる前(10月～11月)の処理が効果的です。

薬剤名	主な作物名	主な対象雑草	10a当りの薬量	10a当りの散布水量	備考
バスタ液剤	りんご、ぶどう、なし おうとう、かき、もも 小粒核果類、ネクタリン ブルーベリー	一年生雑草	300～500ml	100～150ℓ	一年生雑草の場合： おおむね200倍程度で処理する。
		多年生雑草	500～1,000ml	100～150ℓ	多年生雑草の場合： おおむね100～150倍程度で処理する。

## 水田畦畔

### ラウンドアップマックスロードでの秋の畦畔除草による雑草防除およびネズミ穴対策

○翌年の水田畦畔での除草作業日数の削減ができます。  
○秋に水田畦畔での除草を行うと散布翌春の畦畔でのネズミ穴を減少させることができます。  
○ネズミ穴の減少により畦畔の水漏れや崩れを防止するのに効果的です。

薬剤名	主な対象雑草	10a当りの薬量	10a当りの散布水量	備考
ラウンドアップマックスロード	一年生雑草	200～500ml	通常散布 50ℓ～100ℓ  少量散布 25ℓ～50ℓ	・おおむね50倍程度で処理し、茎葉全体に付着するよう散布する。 ・比較的遅行性だが、翌春の発生は極めて少なくなる。 ・散布水量は50ℓ/10aを目処とし、50ℓ散布用のノズルを使用する。
	多年生雑草	200～1,000ml		

※ラウンドアップマックスロードを散布する場合は専用のラウンドノズル(25ℓ少量散布用)を使用すると飛散が少なく、散布量も調節しやすくなります。

## 野鼠対策

### 薬剤による防除：果樹園、水田、畑地用

薬剤名	規格	ネズミ穴投入量	使用方法
ヤソジオン(果樹用)	(10g×50)	20～30包/10a	秋季(根雪前)： 1. 野鼠が侵入・定着しないよう、圃場や周辺の清掃や隠れ場所となるような資材の撤去を行う。また、野鼠の増殖を抑制するため、圃場内に餌となる農作物残渣を残さない。※隠れ場所の除去と雑草防除の同時目的で秋処理の除草剤防除が有効。 2. 共同で秋季一斉防除を実施する。 3. 薬剤の投下量は、農薬登録の範囲内でネズミの生息数に応じて調節する。 4. 降雨が多い時期は、小袋の使用が効果的である。 5. 果樹園では、薬剤防除を行った後に樹幹部を金網、杉葉等で防護する。
ヤソジオン(野鼠用)	(5g×100)	40～60包/10a	
ラテミンリン化亜鉛1%	500g	15～30包/10a	
Z・P3%(劇物)	500g	30～500g/10a	
	1kg		
強カラテミン(劇物)	1kg	15～30粒/穴	
	15kg		

・本資料は防除の一例です。気象条件や作物の生育状況をふまえ、県関係機関にご相談のうえ、現場に沿った適正な防除指導をお願いいたします。  
・農薬は登録内容が変更になる場合がございます。使用前に再度登録内容をご確認のうえ、ご使用いただきますようお願いいたします。



もっと近くに。

全農山形県本部 生産資材部

電話番号 023-634-8157

FAX番号 023-634-8182

農薬はJAマークの製品を!

先入れ先出しの励行を!